

特集3

## 学力保障と地域教育運動の課題

### ―高槻富田地区での取り組みから―

岡本 茂

#### 一 はじめに

被差別部落の子どもの学力形成に関わる研究が、近年、多く登場してきている。その直接的契機は、解放同盟大阪府連による「解放教育改革への提言」<sup>1)</sup>によるものと思われるが、その背景は、依然として克服されないでいる被差別部落の子どもの学力実態である。

低学力、低進学の実態は今日の社会においては、その進路を必然的に狭隘なものにしている。私は、「部落民の就労構造は基本的に変わっていないのではないか」という鍋島祥郎氏の提起を受け、富田地区における八二年、九〇年の地区実態調査のデータをあらためて検証したこ

とがある。四〇歳〜五〇歳代で公務員が増えたといえ、その大部分は「現業」職員であり、専門的・技術的・管理的職業分野は逆にマイナスに転じ、高校中退を含む最終学歴「中学卒業」が、三割弱を占めるという実態はこの一〇年間、何ら変わっていないのである。

その意味で、「部落解放運動の成果も制度初期の精神が忘れられてしまうと大きな欠陥になってしまう」「マイナスイ面を直視しなければ、成果を次の発展のために充分活用することができなくなってしまう」との北口末広氏の指摘を真摯に受け止めたいと思う。

本稿は、一九八七年から約六年間、高槻市富田地区での学力保障に関わる課題をまとめたものである。

高槻市富田地区は、大阪北部にある約七五〇世帯ほど

の大阪では中規模の被差別部落である。部落産業として植木造園業があり、被差別部落の子どものうちの大部分が、富田小学校と第四中学校に通っている。

同和(解放)教育運動の歴史も比較的古く一九六一年、部落解放同盟の支部が結成されると同時に、「義務教育無償」「長欠・不就学をなくせ」「子ども会への援助と教員加配」を要求する闘いが始まり、一九六四年には、当時の「隣保館」で子ども会事業が開始されている。しかし、被差別部落の子どものための「低学力」や「非行」は依然として解決されず、八〇年代、「荒れ」が被差別部落の子どもたちを中心に中学現場で吹き荒れた。

一九八六年三月(八五年度)、被差別部落生徒の全日制高校進学率が六〇%を割り(五九・六%)、被差別部落生徒三七名中一五名が高校進学を断念するという非常事態を生んだ。「学力保障プロジェクト」を発足させる丁度一年前の出来事である。

本プロジェクトから「教育改革推進会議」に至る取り組み経過については、割愛させて頂き、本稿では、「何がどう低学力なのか」、教科・領域のつまづきを調査の中から明らかにするとともに、被差別部落の子どものための低学力要因の背景を明らかにしたい。同時に、「解放の学力」として、「今、何が求められているのか」についても考察

をした。

本稿で明らかにした課題の多くは、この間、地域で解放教育運動を展開してきた多くの被差別部落に共通した課題でもあると確信している。本稿に対し、さらに多くの方々から御助言と御批判を頂ければ幸いである。

### 二 学力・生活実態調査の概要

#### 1 調査の内容と方法

本調査は、第二次解放教育計画検討委員会の「最終報告」を受け、被差別部落児童・生徒の学力実態の総合把握と「低学力」の構造的解明をめざしたものである。教科・領域におけるつまづきの分析を進めるとともに、それら学習面でのつまづきと子どもたちの生活実態との関わりを明らかにし、保育所・学校(小・中・高・地域(子ども会)・家庭(保護者組織)の課題を示そうとした。

調査対象は、小学校五年生および中学二年生である。ただし、小学校六年生と中学一年生については、生活実態調査のみ実施した。

調査内容は、学習理解度と生活実態に関するもので、両者とも第二次解放教育計画検討委員会により大阪府下

で一九八五年に実施された「学力・生活実態調査」によった。

調査総数は、富田小学校児童一七〇名(うち被差別部落児童四三名)、第四中学校生徒四四七名(うち被差別部落児童六三名)で、実施方法は、学習理解度、生活実態調査とも、教室で児童・生徒に解答してもらおうという集合調査によった。実施は一九八七年六月である。

### 2 国語科調査結果の特徴

小学校五年生の平均正答率は図1-1、中学二年生は図1-2の通りである。なお、無答率が中学二年生で二五・六%という高い数値を示した。出題の約四分の一という状態であり、問題に取り組む姿勢、学習理解などに多くの課題が見られた。

小学校五年生の領域別正答率は図1-3の通りである。地区・地区外生との差が大きいのは、長文読解と文章構成力の領域である。とりわけ、細部読み取りではその差はマイナス二四%、文章構成力ではマイナス一六%であった。これらは、長い文章の中から必要な事項を読み取り引き出す、また文章を要約するという論理的思考力が求められる問題である。

中学二年生の領域別正答率は図1-4に示した。小学

図1-1 小学5年国語の平均正答率

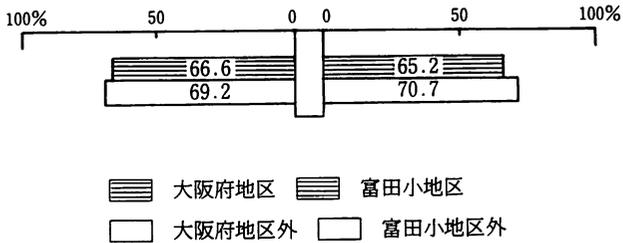


図1-2 中学2年国語の平均正答率

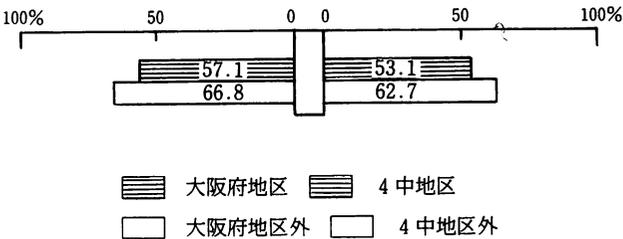
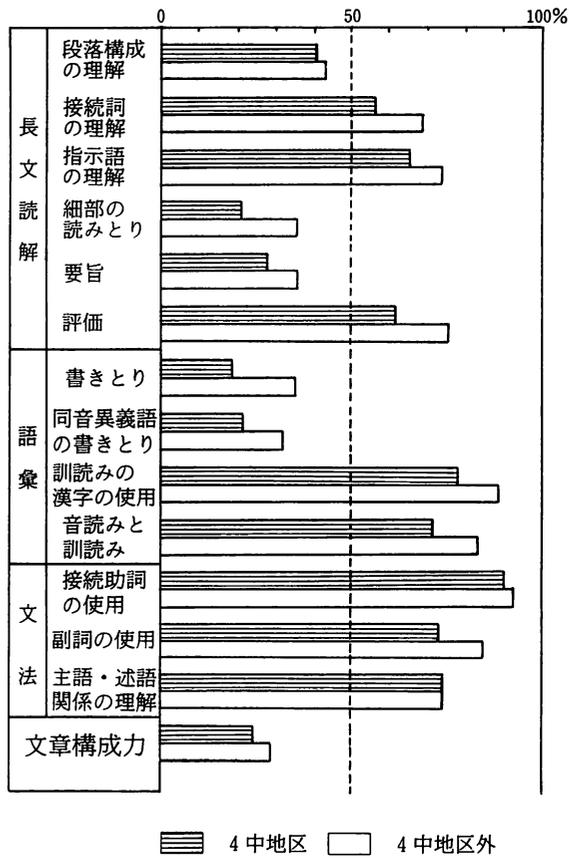


図1-4 中学2年国語出題領域別正答率



5 生活意識調査結果の特徴  
本調査については、小学校五・六年生、中学一・二年生の四学年で行った。

5 生活意識調査結果の特徴

で、格差が大きかったのは「語彙」単語（英訳）、「完成問題（読解力）」などであった。

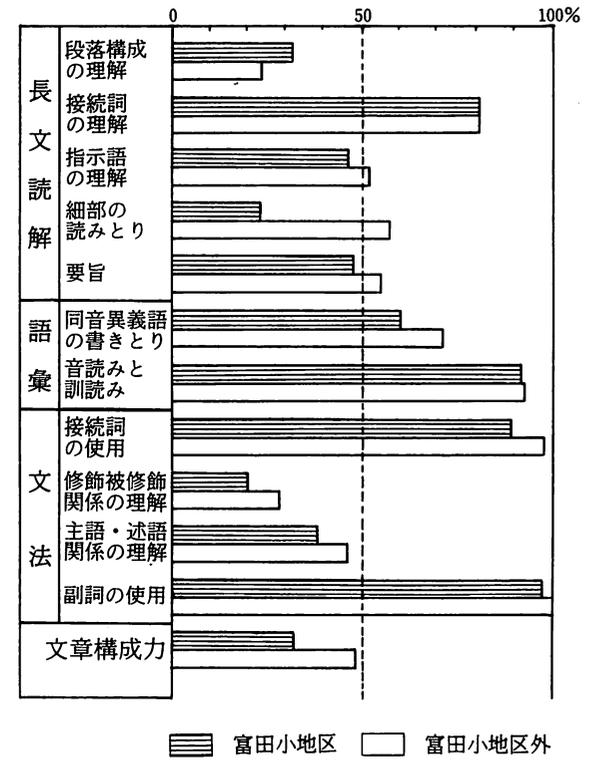
4 英語科調査結果の特徴

中学二年生の平均正答率は、図3-1の通りであるが、今回調査した教科の中で地区・地区外生の学力格差が一番大きかった。

4 英語科調査結果の特徴

中学二年生の領域別正答率は、図2-4の通りで、小学校と同傾向にあり、数理解の「素因数分解」「最大公約数・最小公倍数」の用語の理解と求め方、「円の面積」「扇形の面積」「弧の長さ」などでの無答・誤答が多かった。

図1-3 小学5年国語出題領域別正答率



3 算数・数学調査結果の特徴  
小学校五年生算数の平均正答率は図2-1、中学二年生は図2-2の通りであるが、中学における無答率は、二二・七％で地区外生の約二倍と高い数値を示している。このことは、国語・英語とも共通しており、被差別部落生徒の学力格差と大きな関連があると思われる。  
小学校五年生の領域別正答率は、図2-3の通りである。数の理解、図形、文章題について格差が大きく、「概数」「垂直・平行」という算数用語が理解されていない点も目立った。文章題、とくに複合問題では、文章を読み取り、問題をイメージ化する点で算数・国語の総合的な学力に課題を残している。

校と同傾向にあり、長文読解の細部読み取り・要旨で格差が大きい。他に、漢字の書き取りで「消化（きかん）」「しじ」など日常の生活とかけ離れたものについて無答率が高かった。

図2-3 小学5年算数出題領域別正答率

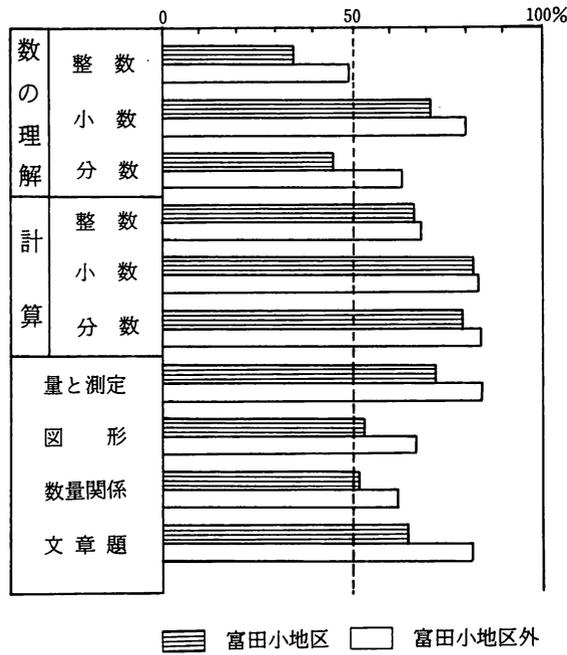
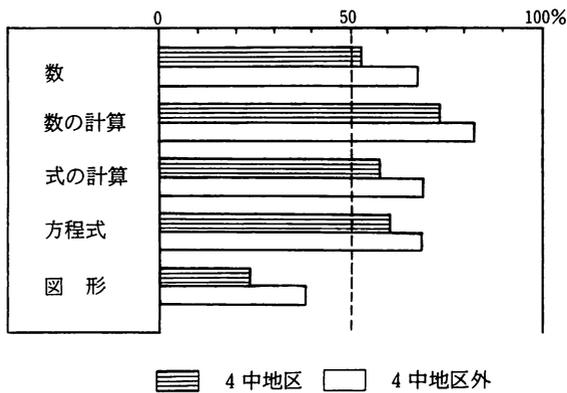


図2-4 中学2年数学の出題領域別正答率



家庭生活の面では、「学習機の有無」「夕食時に家族が揃っているか」など条件面では比較的安定しているにもかかわらず、家族への帰属感が希薄である点が気になった(図4-1-1)。

次に、家庭学習の成立状況であるが、被差別部落児童で勉強時間を決めている生徒は少ない(図4-1-2)。中学二年生では、わずか七・一%であり、逆にテレビを三時間以上見ている生徒は五〇%近くであった。「勉強がわからない時、どうするか」という設問では、「ほっておく」と答えた生徒が中学二年生では地区外生徒の二倍に達している(図4-1-3)。関連する設問で、「参考書・問題集を全然持っていない」と答えた生徒は、小学校で五四・二%(地区外生徒は三二・八%)、中学校で二八・六%(地区外生徒は、一一・七%)であり、家庭学習環境が十分に成立していないことが学力に大きく影響していると考えられる。

学習意欲と関連して、大きな課題が進路目標である。中学二年生に「中学卒業後の進路」を聞いた結果は図4-1-4の通りである。「できれば短大・大学まで進学したい」と答えた生徒は地区外生で四八・四%であるのに対し、被差別部落生徒では約半分の二五%であった。一方、明確な進路目標がなく、「まだ決めていない」と答えた生徒

図2-1 小学5年算数の平均正答率

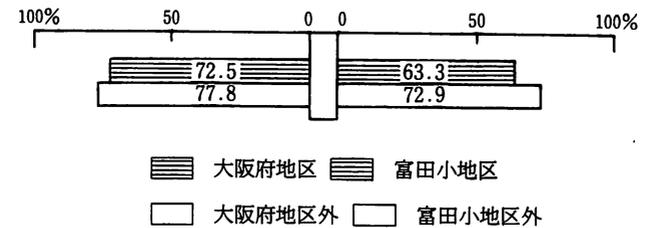
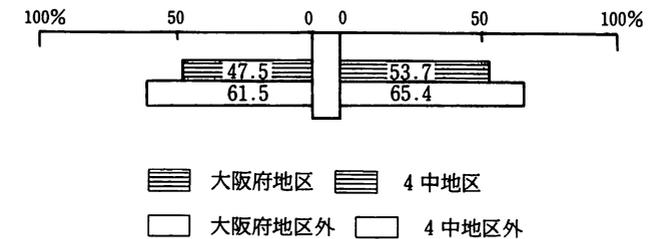
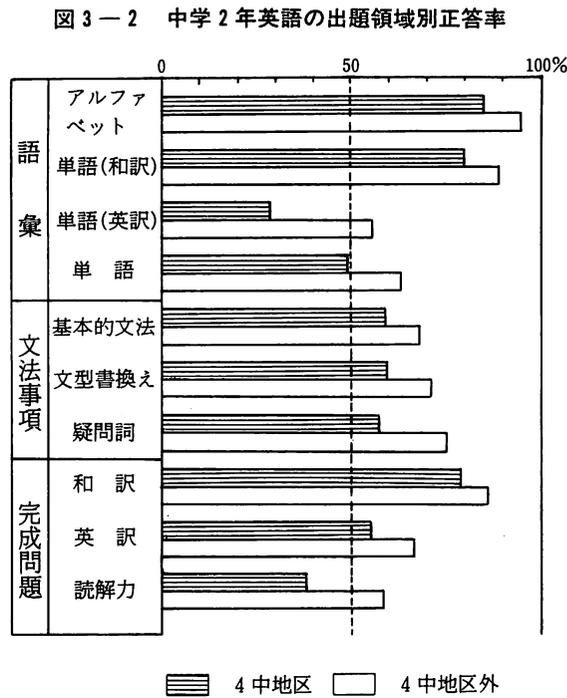
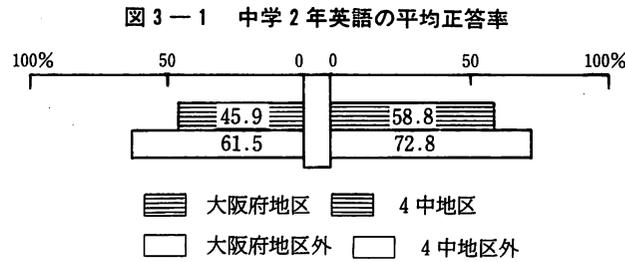


図2-2 中学2年数学の平均正答率





が、被差別部落の場合、地区外生の二倍にも達した。逆に、「希望の仕事につけるか」と聞いた設問では、「多分つける」と答えた子どもが被差別部落生徒で五二・九％と半数に達している。地区外生が二〇・四％であったことを考えると、これは極めて高い数字であり、被差別部落に共通する「将来への見通し」「生活設計能力」の弱さを端的に示している。

### 三 乳幼児(就学前教育)実態調査の概要

大阪同和保育連絡協議会が中心となり、「被差別部落の乳幼児の生活と遊びに関する実態調査」を行ったのは一九八五年である。私の知るところ、これほどの大がかりな調査であるにもかかわらず、各地区単位で保育(就学前教育)に返すべき課題が十分に論議されていない。これには、各保育所(園)の体制の問題もあるが、富田地区でも「教育改革」の動きと合わせ、論議になったのは、一九九〇年であった。

本調査は、八五年調査および「富田地区教育改革推進会議」での討議を受けて、富田第二保育所が独自に行った調査である。

#### 1 調査の内容と方法

調査内容は、八五年調査のうち、「保育所での子どもの姿に関する実態調査」の項目に準じたが、一部変更も加えた。項目は、大きく「言語」「社会」「探索」に関わる部分である。

調査方法は、保育所で母母が子どもの日常の生活を観察して記入する方法をとった。

調査対象は、保育所に在籍する三歳〜五歳組の子どもである。ただし、月例差があるため、調査実施時期の一九九一年一月現在の満年齢とし、三歳一八人、四歳一五人、五歳一九人、六歳二〇人の計六二人、全員、被差別部落の幼児である。

#### 2 「言語」における課題

被差別部落児童の語彙数の不足が小学校教師側から指摘されている。項目が多岐にわたるので、本稿では三歳児と五歳児の数値を表1、表2に示した。

三歳児で、一人称代名詞や範疇語で大きな落ち込みがあるほか、位置関係、時間の概念、季節といった抽象概念や形容詞・副詞を使った表現力、絵本の世界を遊びに取り入れるといったイメージ力などに大きな課題を示し

図 4-2

「勉強時間は決めているか」

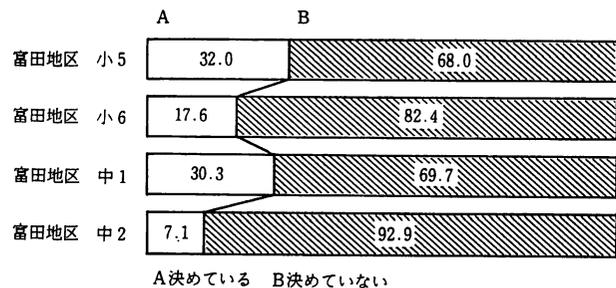


図 4-3

「勉強がわからない時、どうするか」 = 「ほっておく」 =

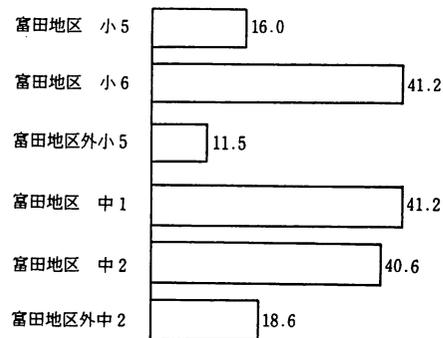
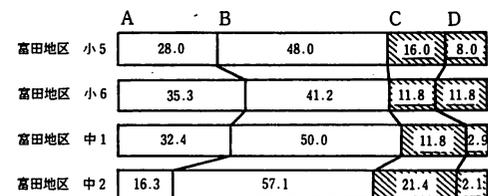


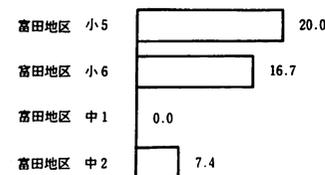
図 4-1

「おやは気持ちをわかってくれるか」

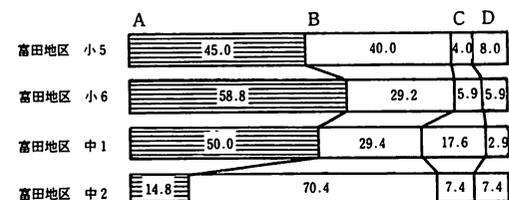


A よくわかってくれる B だいたいわかってくれる  
C あまりわからない D ほとんど無理解

「悩みや心配ごと」 = 両親の仲がよくない =



「家族といるのは楽しいか」



A 楽しい B まあ楽しい  
C あまり楽しくない D 楽しくない

= 家庭内に争い事がある =

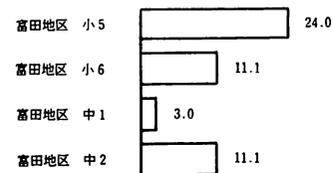
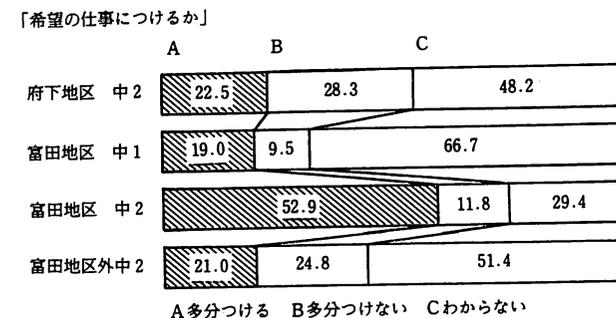
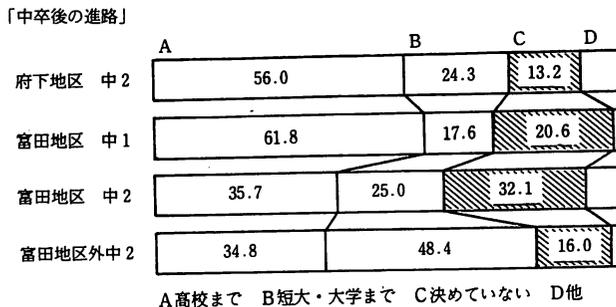


図 4-4



た。「ことば」そのものが、日常の家庭生活で獲得する部分も多く、被差別部落の文化的低位性が就学段階で大きく反映していることも、小・中学校での低学力の大きな要因である。

知的好奇心を促すための環境をどう設定していくかが重要であり、保育の中でも「文字環境」「自然事象への発見の喜び」「絵本の読み聞かせ」「経験した事を文につなげる(言語化)」などの意識的な取り組みが必要と思われる。

### 3 「社会」探索における課題

「社会」探索は、学力の基礎をなす部分である。概して、要求や自己主張が強い反面、友達との関係や遊びのルールなどの社会性・組織性、手先のしなやかさ、工夫して遊ぶといった探索・操作の力が弱い点に被差別部落児童の大きな特徴が現れている。これらは三歳〜六歳へと年齢が上がるにつれ、より多くの課題となっている。この項では、五歳・六歳の数値を紹介した。(表3-1、表3-2、表4-1、表4-2)

特に、ごっこ遊びや積み木・ブロックで少し複雑なものを作って遊ぶといったことや想像しているん

なものを描くことなどイメージ力を問われる項目の数値が極めて低かった。また、飼育・菜園活動での見通しにも課題が感じられた。

学校教育で求められる知識理解・定着の基本となる「認識力」「イメージ力」「表現力」をいかに幼児期に獲得しうるか、私はここに被差別部落児童の低学力構造を突破する重要なポイントがあるのではないかと考えている。

## 四 学力保障の課題

### 1 「解放の学力」とは

私たちは、これまでの富田の解放教育運動の積極面は積極面として受け継ぎ発展させながら、部落解放を担いうる子どもたちを本場に作り出しているのかという厳しい自己批判にたつて、新たな教育運動の方向を作り出そうと試みた。その第一歩は「解放の学力」についての認識の一致である。

これまで、私たちは「差別と闘う感性」を重視し、「被差別としての立場の自覚」を子どもたちに迫ってきた。そして、そのことを指して「解放の学力」と言ってきたきらいがある。

しかし、今日時点での学力保障の提起ならびに立場の自覚をめぐる子どもたちの環境の変化をふまえ、改めて「解放の学力」として求められているものは何か「何をこそ、どう保障していくのか」を議論する必要がある。

その一つは、「特措法」世代の子どもたちの意識が確実に変化しているということである。日常、差別がいくらかでも回りにある時代は差別を直感できたし、いわば無自覚の内に「自分たちと他は違う」ということを実感しえた。だが、今の子どもたちはどうだろうか。「被差別の自覚から学力に立ち向かう」という従来のアプローチが依然として有効なのかどうか議論されなければならない。

第二に、被差別を共有するべき立場の部落の子どもたち自らが、「障害」者差別や「いじめ」に加担しているという実態をどうとらえるのかという点である。

第三に、部落解放運動そのものが第三期といわれる反差別・国際連帯の共同闘争主導の時代へと大きく変化していることである。

南アのアパルトヘイトの話聞いて南アがどこにあるか、ベルリンの壁が崩壊してもそれがどこにあるかさえも知らない部落の子どもが多数存在する。社会全体から自らの立場を見つめ直す、社会を知ること自分で自分を

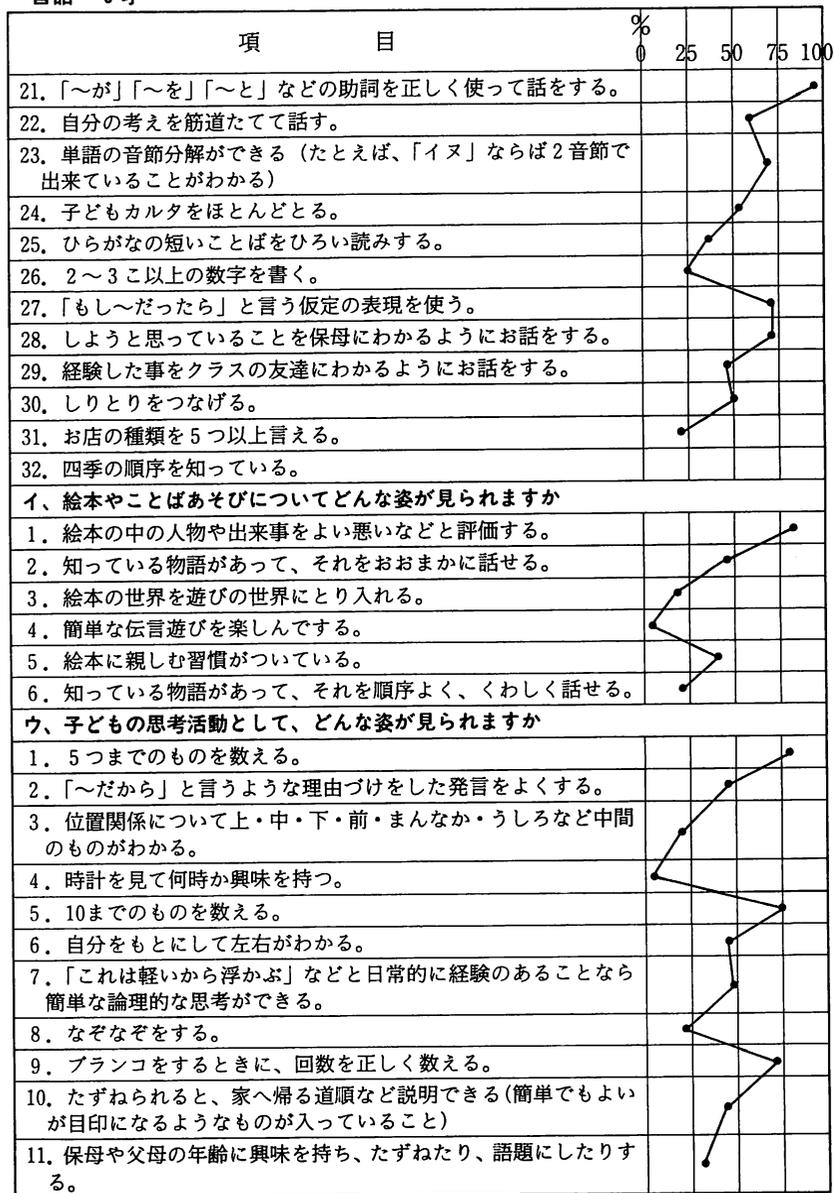
言語 3才

項目	%				
	0	25	50	75	100
25. 基本的な色の名をほとんど知っている。					
26. 「とってもきれい」「きらきら光っている」などと形容詞や副詞をさかんに使って話をする(イメージゆたかに話す)					
27. うさぎやライオンなど動物の名前が5つ以上言える。					
28. タンポポやひまわりなど、身近にある花の名前を知っている。					
29. 電車、バス自動車などの乗り物の名前を知っている。					
30. だいこんやねぎなど、八百屋で売っている野菜のおもな名前を知っている。					
31. 「遠い近い」がわかり使っている(たとえば「遠くの公園はイヤ、近くがイイ」など)					
32. 「～みたい」というようなたとえの表現をして話をする。					
<b>イ、絵本やことば遊びについてどんな姿が見られますか</b>					
1. 自分で絵本を見て楽しんでいる。					
2. 簡単なわらべうたあそびをしてもらおうと喜ぶ。					
3. 読んでもらった絵本の筋や内容がだいたい理解できる。					
4. 絵本を読んでとせがむ。					
5. 絵本の中の出来事に一喜一憂したりする。					
6. 絵本を見ながら、子ども同士いろいろな話を話し合う。					
7. 絵本や物語がとぎれそうになると、そのあとをさいそくする。					
8. 絵本の中の人物や出来事をよい悪いなどと評価する。					
9. 知っている物語があって、それをおおまかに話せる。					
10. 絵本の世界をあそびの中にとりいれる。					
11. 簡単な伝言あそびを楽しんでいる。					
<b>ウ、子どもの思考活動として、どんな姿が見られますか</b>					
1. みてあそび、つもり遊びをする。					
2. 丸、三角、四角にふれて、形のちがいがわかり、いわれると指す。					
3. くつ箱などの上下がわかる。					
4. 自分の前後がわかる。					
5. 2つの物を比べて、多い・少ない・長い・短い・高い・低いなどの言葉が分かる。					
6. 丸、三角、四角の形のちがいがわかり、言える。					
7. いちいち「なんで?」と理由を聞きだがる。					
8. 3つまでのものを数える。					
9. 「ごっこあそび」をさかんにする。					
10. ～ちゃんのまえ、～ちゃんのうしろに並ぶことなどがわかる。					
11. 右手、左手がわかる。					

表1 言語 3才

項目	%				
	0	25	50	75	100
<b>ア、まわりの大人や子どもとの交流や会話の姿はどうか</b>					
1. 赤、青などの色の名前が1つでもわかり、その色を指す。					
2. 「これなあに?」とさかんに聞く。					
3. 2語文を言う。(「ブーブーノック」「パパカイヤイツ」など)					
4. 自分の名前が言える。					
5. みんなの前で自分の名前を呼ばれると「ハイ」と返事をする。					
6. 2つ以上の色の名前がわかり、その色を指す。					
7. 「きれい」「かたい」「おいしい」など、いくつかの形容詞を使う。					
8. 「パパカイヤイツ」など3語以上の文(多語文)を言う。					
9. 「きのうどこへ行ったの」という質問の意味がわかり、「デパート」などに行った場所を言う。					
10. 「だれが～したのかな」という意味がわかり、「～ちゃん」などと、したものの名前を言う。					
11. 「～ちゃんの」「～ちゃんのくつ」などという言い方をする。					
12. ブランコなど園内にある道具の名前がわかり言う。					
13. 遊びの中で、友達とある程度会話ができる。					
14. 自分の事を「ボク」「ワタシ」などの1人称の代名詞を使って言う。					
15. 1つもっていて、さらに同じものを「もう1つちょうだい」と言う。					
16. 「お昼の時間」などというふうに、「時間」という言葉を使うようになる。					
17. 他の子に「～しようか」などと、言葉でさそいをかける。					
18. 自分の使いたいものを他の子が使っているとき、「かして」などと言って頼む。					
19. 自分の見聞きした事、経験したことについて保育者に話をする(すらすら言えなくてもよい)					
20. 自分の経験した事について、短く文を切らずに続けて話をする(たとえば「買物に行って、ごはんを食べて、帰ってきて…」など)。					
21. 自分のしたいことを保育者にことばではっきりと言う。					
22. 自分のしたいことを友達にはっきり言う。					
23. 「けれど」「でも」などの逆説の接続詞を使って話すようになる。					
24. 「さかな」「野菜」「くだもの」「動物」などと言うことばを範疇語(はんちゅうご)として2つ以上理解している。(範疇語、たとえば「さかな」ということばは、ふな、きんぎょ、たいなどとレベルが異なっており、それらの上位概念であるということを理解しているかどうかである)					

言語 5才



言語 3才

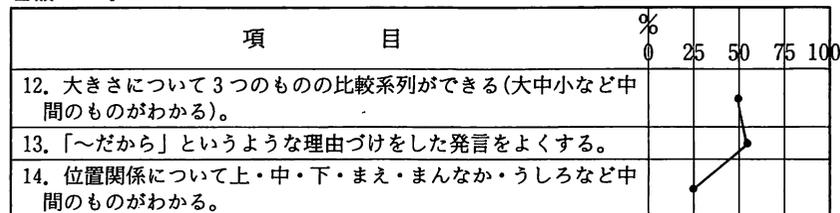
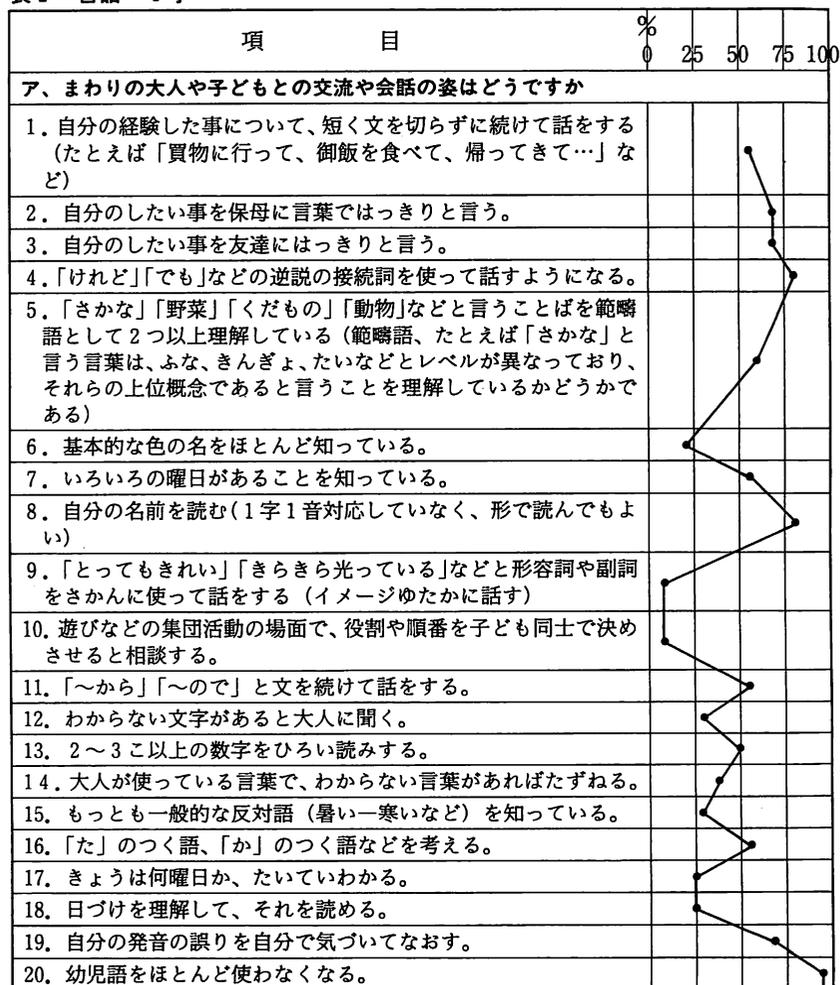
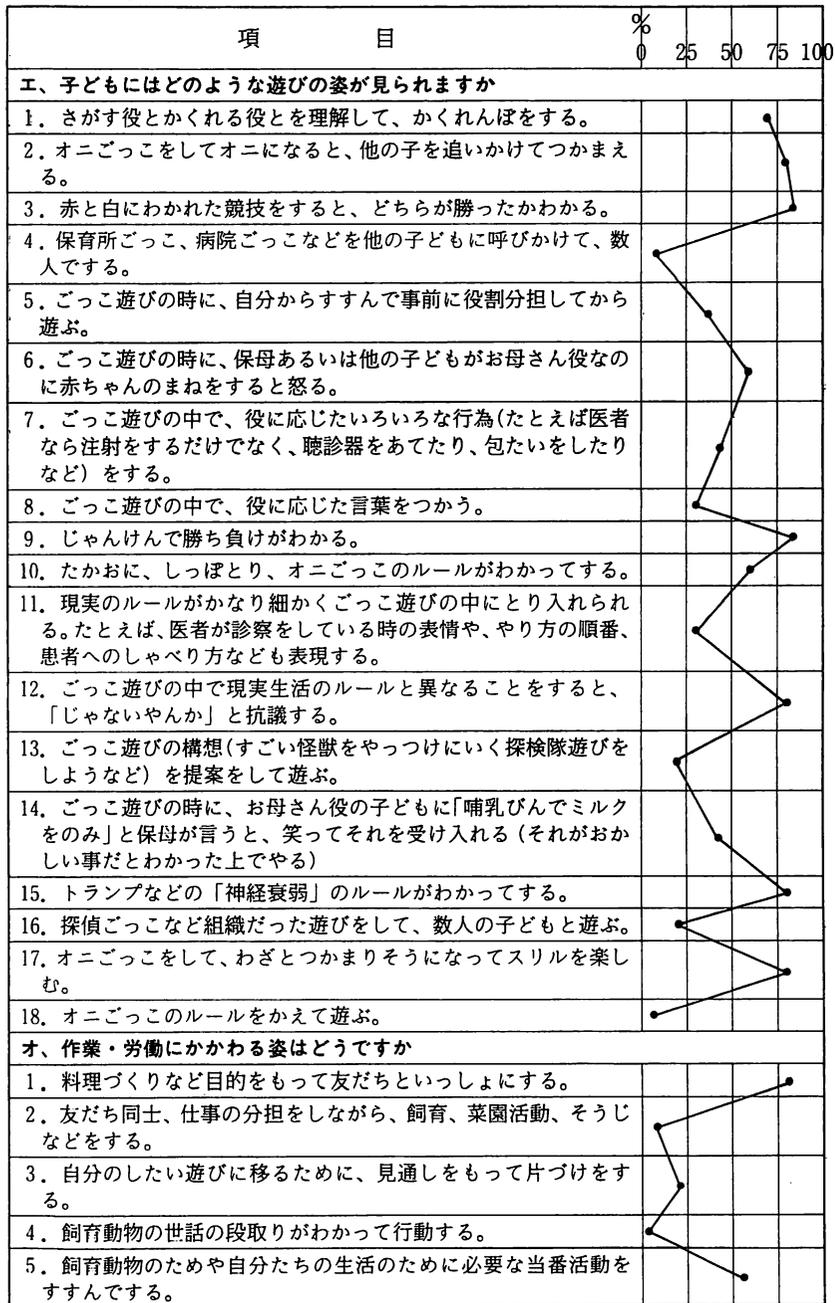


表2 言語 5才



社会 5才



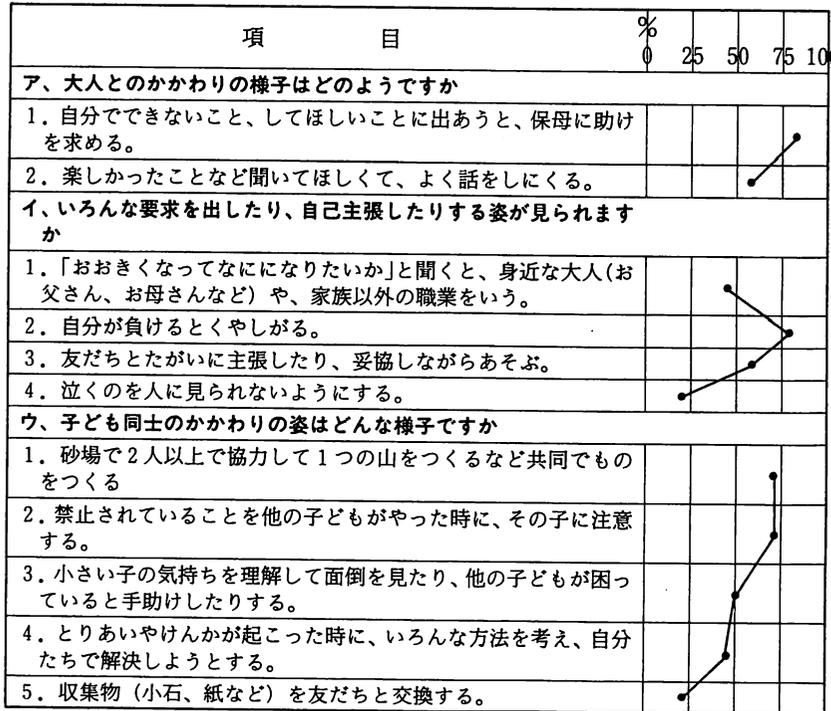
違った文化と触れ合う。そうした中から、「差別する側としての立場の自覚」も含めて「差別をなくしていくという立場の自覚」への広がりを持った「社会的立場の自覚」こそが今、求められているのではないか。

こうした意味での「社会的立場の自覚」を可能にし得る力として学力の重要性を第一に再認識すべきであろう。

第四に、「痛みを共有する」という時、そこには自らをそこに置き換えるという認識力が不可欠である。同時に、「話を聞く力」「話を読み取り、理解する力」が無ければ、そのことに思いを馳せ、共感するという感情は生まれにくい。文章に要約する力「要点立てて話す力」は、文を組み立てるイメージ力とも関連する問題である。鋭い感性も基礎学力の裏打ちがあつてより大きな力になりうるだろう。これらこそが部落の子どもたちに、今、保障されねばならぬ力でもある。

第五に、社会に出るスタートラインで真に職業を選択できる多種多様な能力の獲得である。「進路保障こそ同和教育の総和」といわれながらも、被差別部落の就労構造がこの間の教育運動の積み上

表3-1 社会 5才



社会 6才

項目	%			
	0	25	50	75 100
オ、作業・労働にかかわる姿はどうか				
1. 自分のしたい遊びに移るために、見通しを持って片づけをする。				
2. 飼育動物の世話の段取りなどがわかって行動する。				
3. 飼育動物のためや自分たちの生活のために必要な当番活動をすすんでする。				

表4-1 探索 5才

項目	%			
	0	25	50	75 100
ア、食事に使う道具(はしなど)についてはどんな姿が見られますか				
1. 食べやすいように食器を操作して、はしで最後まで食べる。				
2. 汁の中の浮いている具をはしではさんで食べる。				
3. はしで固いものを切って食べる。				
4. 汁の中に入っている自分の好きな、小さな具をはしの先でよって食べる。				
5. はしで薄いものをはさんで食べる。				
6. すべるものや軟らかいものをはしでうまく食べる。				
7. はしでグリンピースなど小さいものをつまんで食べる。				
イ、園庭での遊具や道具を使つての遊びでどんな姿が見られますか				
1. 三輪車でスピードを楽しむ。				
2. 走りやすい場所を選んで三輪車に乗る。				
3. 三輪車の後にひもを結び、物をひっぱって乗る。				
4. 砂場の中に木片をいれて、線路や山をつくり、汽車を走らせるなどして遊ぶ。				
5. つぶれないトンネルをつくるために、土に水をまぜるなど工夫する。				
6. シャベルで砂をほり、ほった砂を横に投げる。				
7. シャベルで砂場におとしあなをつくる。				
8. 三輪車で直線にそって走ろうとする。				
9. 三輪車でスケーターのりをする。				
10. スコップとシャベルを使い別けてものをつくる。				
11. 土のかたさによって、シャベルの使い方をかえる。				
12. 三輪車を連結させて走る。				
13. 三輪車で白線の上を走る。				
ウ、室内での遊びの姿はどうか				
1. 絵をかいて楽しむ。				

表3-2 社会 6才

項目	%			
	0	25	50	75 100
ア、大人とのかかわりの様子はどうか				
1. 自分でできないこと、してほしいことに出あうと、保育に助けを求める。				
2. 楽しかった事など聞いてほしくて、よく話をしにくる。				
イ、いろんな要求を出したり、自己主張したりする姿が見られますか				
1. 「おおきくなったらなになにになりたい」と聞くと、家族以外の職業・「お兄さん」「お姉さん」と自分の身近にいる人で、上の年齢の人を答える。				
2. 泣くのを人に見られないようにする。				
ウ、子ども同士のかかわりの姿はどんな様子ですか				
1. 砂場で2人以上協力して1つの山をつくるなど共同でものをつくる。				
2. 禁止されていることを他の子どもがやったときに、その子に注意する。				
3. 小さい子の気持ちを理解して面倒を見たり、他の子どもが困っていると手助けしたりする。				
4. 取り合いやけんかが起つた時に、いろんな方法を考え、自分たちで解決しようとする。				
5. 友達がやってもらいたいと思っていることを察してやることがある。				
6. 収集物(小石、紙など)を友だちと交換する。				
7. 自分が負けてもゲームを楽しむ。				
エ、子どもにはどのような遊びの姿が見られますか				
1. じゃんけん勝ち負けがわかる。				
2. たかおに、しっぽとり、オニごっここのルールがわかってする。				
3. 現実の生活のルールがかなり細かくごっこ遊びの中にとりいられる。たとえば、医者が診察しているときの表情や、やり方の順番、患者へのしゃべり方なども表現する。				
4. ごっこ遊びの中で現実生活のルールと異なることをすると、「じゃないやんか」と抗議する。				
5. ごっこ遊びの構想(すごい怪獣をやっつけにいく探検隊あそびしようなど)を提案して遊ぶ。				
6. ごっこ遊びの時に、お母さん役の子どもに「ほ乳でミルクをのみ」と保育者が言うと、笑ってそれを受け入れる(それがおかしい事だとわかった上でやる)				
7. トランプなどの「神経衰弱」のルールがわかってする。				
8. 助け鬼など組織だった遊びをして、数人の子どもと遊ぶ。				
9. オニごっこをして、わざとつかまりそうになってスリルを楽しむ。				
10. オニごっこのルールをかえて遊ぶ。				

表4-2 探索 6才

項目	%			
	0	25	50	75 100
<b>ア、食事に使う道具(はしなど)についてはどんな姿が見られますか</b>				
1. はしで固いものを切って食べる。			●	
2. 汁の中に入っている自分の好きな、小さな具をはしの先でよって食べる。				●
3. はしで薄いものをはさんで食べる。			●	
4. すべるものや軟らかいものをはしでうまく食べる。			●	
5. はしでグリーンピースなど小さいものをつまんで食べる。			●	
<b>イ、園庭での遊具や道具を使っての遊びでどんな姿が見られますか</b>				
1. つぶれないトンネルを作るために、土に水をまぜるなど工夫する。				●
2. シャベルで砂をほり、ほった砂を横へ投げる。				●
3. シャベルで砂場に落とし穴をつくる。				●
4. 三輪車で直線にそって走ろうとする。				●
5. 三輪車でスケーターのりをする。				●
6. スコップとシャベルを使いわけてものをつくる。				●
7. 土のかたさによって、シャベルの使い方をかえる。				●
8. 三輪車を連結させて走る。				●
9. 三輪車で白線の上を走る。				●
<b>ウ、室内での遊びの姿はどうか</b>				
1. 思ったものを絵にかく。(子どものイメージしたものが伝わればよい)				●
2. 想像していろんなものをかいて楽しむ。				●
3. ごっこ遊びに使うもので、複雑な形をはさみで切りぬく。(お面など)				●
4. 指を上手にを使って、三角、四角折りをする。				●
5. よく飛ぶように工夫しながら、紙ヒコーキを自分で折る。				●
6. 大型積み木で、本当にその中で遊べる家を作る。				●
7. 経験したことを絵にかく。				●
8. 筆を使って、絵の具でかく。				●
9. 廃品を利用して、簡単なものを自分で作る。				●
10. はさみで穴を切りぬく。				●
11. はさみで布を切る。				●
12. はさみでセロハン、ビニールひもなどを切る。				●
13. 本を見ながら、折り紙でフーセン、やっこなど簡単なものを折る。				●

探索 5才

項目	%			
	0	25	50	75 100
<b>2. 積み木やブロックで汽車や家など、少し複雑なものをイメージしながらつくる。</b>				
<b>3. 積み木やブロックで、遊びに必要なものを工夫してつくる。</b>				
<b>4. はさみで簡単な形をきりぬく。</b>				
<b>5. 指をじょうずに使って、折り紙に折り目を入れる。</b>				
<b>6. はさみとノリを使って、簡単なものをつくる。</b>				
<b>7. 思ったものを絵にかく。(子どものイメージしたものが伝わればよい)</b>				
<b>8. 想像していろんなものをかいて楽しむ。</b>				
<b>9. ごっこ遊びに使うものをはさみできりぬく。</b>				
<b>10. 指をじょうずに使って、三角、四角折りをする。</b>				
<b>11. よく飛ぶように工夫しながら、かみヒコーキを自分で折る。</b>				
<b>12. 大型積み木で、本当にその中で遊べる家を作る。</b>				
<b>13. 経験したことを絵にかく。</b>				
<b>14. 筆を使って、絵の具で絵をかく。</b>				
<b>15. 廃品を利用して、簡単なものを自分で作る。</b>				
<b>16. はさみで穴をきりぬく。</b>				
<b>17. はさみで布を切る。</b>				
<b>18. はさみでセロハン、ビニールひもなどを切る。</b>				
<b>19. 本を見ながら、折り紙でフーセン、やっこなど簡単なものを折る。</b>				
<b>20. はさみで複雑な形をきりぬく。(星型など)</b>				
<b>エ、まわりのものへのかわりとして意欲的な姿が見られますか</b>				
<b>1. むしとりあみでチョウやバッタをつかまえることに興味を持つ。</b>				
<b>2. 石ころやピンのふたなどこまごましたものを集めてためる。</b>				
<b>3. 虫あつめに興味をもつ。</b>				
<b>4. 科学図鑑などの絵に興味をもって見る。</b>				

げにもかかわらず、基本的  
に変わっていないという現  
実を真摯に受け止めるべき  
であろう。

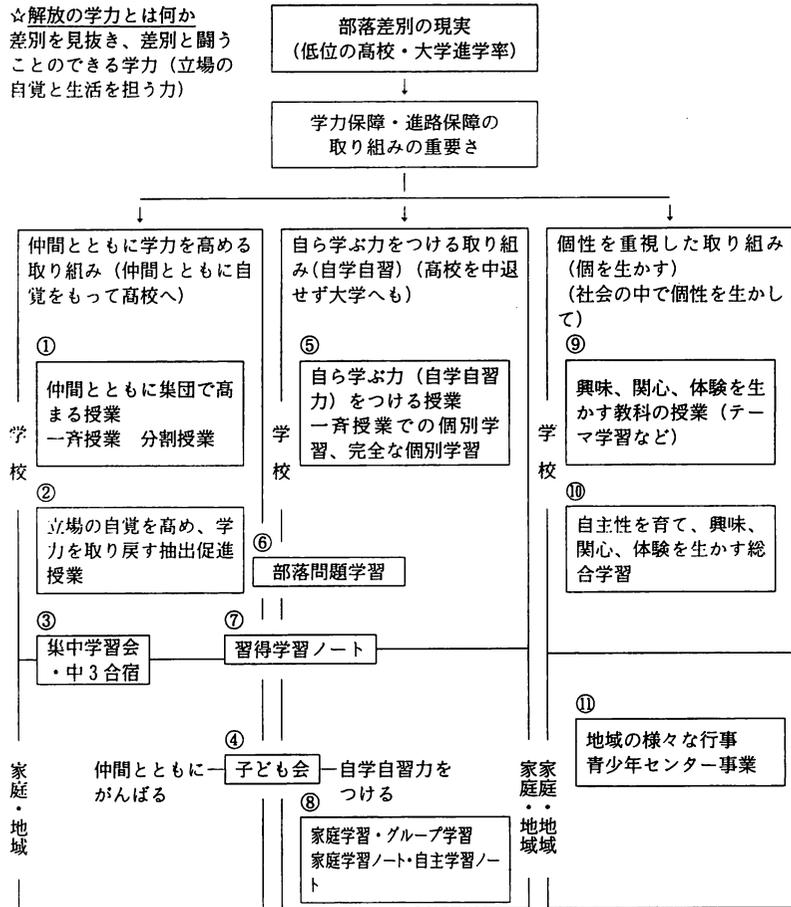
2 学力保障の道筋を明  
らかにする

「新しい学力観」がここ  
数年提唱されている。一言  
でいえば、「自己教育力」で  
あり、自ら学ぶ意欲と社会  
の変化に対応しうる能力の  
育成、基礎・基本の徹底、  
個性を生かす教育である。  
私は、被差別部落の低学力  
児童・生徒に二つのパター  
ンがあると感じている。一  
つは、こつこつ取り組む力  
がありながら学力が定着し  
ていかない生徒である。こ  
れらは、就学前段階で奪わ  
れてきた「認識力」「国語力」

別表1 高槻四中の授業づくりの全体像と学習形態・内容一覧

☆授業づくりの基本的前提 授業づくり事務局  
 部落差別の現実から深く学び、「地区」生の解放の学力と進路を保障するとともに、すべての生徒の学力と進路を保障する

☆解放の学力とは何か  
 差別を見抜き、差別と闘うことのできる学力（立場の自覚と生活を担う力）



の校内体制の確立 ③ 各教科の授業研究の前進と授業技術の向上 ④ 学習集団づくりの必要性の認識と班を生かした集団で高まる授業の前進 ⑤ 授業規律の必要性の認識 ⑥ 自学自習の習慣の大切さの認識と一定の定着 ⑦ 個性や興味・関心を伸ばす取り組みの前進 ⑧ 個に応じた指導の必要性の認識とさまざまな取り組みの模索 ⑨ 公開授業の成功 ⑩ 学習環境の整備に集約される。

探索 6才

項目	%				
	0	25	50	75	100
エ、まわりのものへのかかわりとして意欲的な姿が見られますか					
1. 虫とりあみでチョウやバッタをつかまえることに興味を持つ。					
2. 石ころやビンのふたなどこまごましたものを集めてためる。					
3. 虫あつめに興味をもつ。					
4. 科学図鑑などの絵に興味をもって見る。					

に起因するものであり、日々の設定保育・教科授業の見直しとこれらを可能にする環境設定が不可欠である。

もう一方は、力がありながら学習態度・習慣が確立できていない生徒である。興味・関心・態度・意欲が、学習成立のスタートであり、学習の主体者は子ども自身である。教師・保母主導の知識の教え込みから、子ども主導型への転換、支援者としての学校・保育所、地域・親の役割と連携のある方が各地域で検討されるべき時期ではないかと思う。

従来の「一斉授業」から「個と集団を生かす授業づくり」へ、さらに多様な学

習形態の追求が必要である。

高槻市立第四中学校は、一九九二年、一九九三年の二年間、文部省の同和教育研究指定校をうけ、中野陸夫氏（大阪教育大）らの協力を得ながら授業作りの新たな研究を行ってきた。

第一には、学力保障と授業改革である。その要点は、「班を生かし、集団で高まる授業づくり」「個性と興味・関心を伸ばす授業」「個」を重視し、自学自習の力をつける授業」である。これらは、学習理解の個人差をふまえて、それぞれに応じた速度で、それぞれに応じた内容を、それぞれに合った学習方法を部分的に追求しようとするものである。

第二に、自主行動を取り入れたナガサキ修学旅行、「総合学習」など、体験を重視し、生徒の自主性・創造性を高める取り組みである。

第三に、生徒会改革を中心とした子どもの自立を促す取り組みである。学習の主体者としての生徒自身による授業改革（授業規律キャンペーン）など、生徒が主役の学校づくりである。なお、授業づくりの全体像については、別表1を参照願いたい。

第四中学校での二年間の成果は、①教職員の授業づくりのモラルの高まりと意欲の向上 ②授業づくり推進

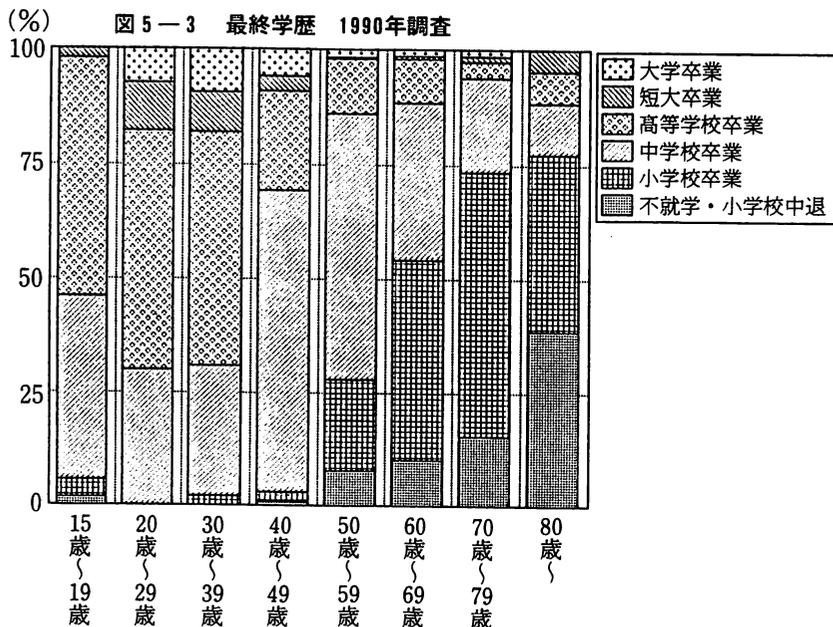
図5-1  
一世帯あたり平均年収の変化

	82年	90年
200万円未満	35.8	33.6
200～300万円未満	23.8	15.0
300～500万円未満	24.7	23.2
500～700万円未満	9.8	14.6
700万円以上	5.0	11.7

図5-2 就労内容

	82年	90年
専門的・技術的 管理的職業	13.3	10.1
事務	13.0	13.5
販売	8.5	13.1
運輸・通信・技能	14.7	22.0
単純労働	13.3	12.9
サービス	15.8	12.9

図5-3 最終学歴 1990年調査



育条件の向上である（同和加配教職員の配置、子ども会活動、奨学金制度、保護者組織の確立など）。第二に、被差別部落内でも階層分化が進んでおり、経済的安定層と依然厳しい生活実態層とに二極分解しつつあるということである（図5-1）。第三には、これと関連して親の教育要求・意識も多様化していること。第四に、子どもを取り巻く生活環境・意識の変化と、啓発活動の成果によるものであるが地区外の差別意識の一定の改善がある。しかし、依然として変わっていないものの第一は、本稿冒頭でもあげた被差別部落の就労構造である。図5-2は、一九八二年と九〇年に富田地区で行った地区実態

【学習形態と内容】

①仲間とともに集団で高まる一斉授業と分割授業	発問や評価を生かす。班や小集団を活用する。生徒の発言や仲間とともに主体的に学ぶ意欲を引き出す。「しんどい」立場の生徒を中心にすえた、本校の授業形態の基本であり、中核である。
②立場の自覚を高め、学力を取り戻す抽出促進授業	「抽出宣言」の取り組み後おこなう。学力を取り戻せば原級復帰をし、仲間とともにがんばるのが原則。2年前より、「地区」生集団を育てるためと、公立高校をめざすための抽出にも取り組んでいる。
③集中学習会・中3合宿	進路保障に向け、中3合宿は中3の夏休み、集中学習会は中3の冬休み以降に学年体制で行う。
④子ども会での地区促進学習	部落解放子ども会での火、金の学習会（担当教師は学年で割り当て。木は家庭学習・グループ学習）
⑤自学自習力をつける授業	
・一斉授業での個別学習	同一課題を1人ひとり別々に自由な進度で学習したり、個に応じた課題を選択して個人的に学習する形態。一斉指導の中に適宜取り入れ自学自習力をつける。
・完全な個別学習	単元を限定して、個に応じた課題を数種類用意して選択させ、自由な進度で学習する。最低習得内容や学習計画を決めたり、学習の手引、学習資料などを準備する。
⑥部落問題学習	基本的なカリキュラムを元に、生徒の実態にそった内容を検討し、生徒の主体性を尊重して進める。
⑦習得学習ノート	家庭と学校の両方で、基本的な学力と自学自習の力をつけるために学習を進めるためのノート。内容については教科で検討する。（実施にあたっては各教科や授業づくり事務局で検討・調整する）
⑧家庭学習・グループ学習	木曜日におこない、学年担当教師（子担当が割り当て）が指導員と協力して家庭を巡回する。
⑨興味・関心・体験を生かす教科の授業	テーマや課題を設定して自由に研究させたり、いろいろな体験授業をしたりする。
⑩自主性と興味・関心・体験を生かす総合学習	教科の枠をこえて、自由なテーマで研究したり、体験学習をしたりする。一人ひとりが自分でやることを選び学習する。夏休みにも行う。（教師は全員で分担し関わる）
⑪青少年センター事業	青少年センターが、地域の子どもたち（「地区」外生も対象）に、センターで絵画教室や英会話教室などの様々な文化的な取り組みを行う。学校は関わらない。

五 新しい教育運動の方向性をめぐって

1 今日の差別実態の変化

戦後、高度成長期を経てわが国の経済状況は大きく変化した。とりわけ、一九六九年の同和对策事業特別措置法施行以降、運動の高まりとあいまって大阪の被差別部落は大きく変貌した。「何がどう変化し、依然として変わっていないものは何なのか」を明確にすることは、新たな教育運動（教育改革）を創造していく上で極めて重要なことである。なぜなら、学習の主体者は今を生きている子どもたちであるからである。

変化の部分でいえば、第一に運動の成果による人的・物的教

調査から抽出したものであるが、「運輸・通信・技能」「単純労働」「サービス業」といった被差別部落の伝統的就労形態の数値はほとんど変わっておらず、逆に「専門的・技術的・管理的職業」は逆に減少している。図5-3は、富田地区での年代別最終学歴を見たものであるが、二〇歳代でも最終学歴「中学校卒業」が三割を占めており、「四年制大学卒業」は三〇歳代より減少している。図で示した二〇歳代の多くは、今、保育所・小学校低学年の親の世代である。彼らは、小学校入学時点から同和教育の諸制度が確立された中で学校教育を終えた世代でもある。

それゆえに、これまでの「同和教育」の成果がどうであったのか、その真価が厳しく問われなければならないと私は思う。

第二は、被差別部落の保守性と文化的貧困、家庭教育力の低位性である。永年の部落差別の結果ではあるが、鍋島氏の言を借りれば「一種の強迫観念」に基づく閉鎖性と画一性が被差別部落に存在する。親自身が子どもに対して「何とか高校さえ」「世間並みに」といった低い教育要求にとどまっているのが現実であり、良い意味で子どもにも目標を持たせ、励ますといった関係が十分に成立していない。

「子育て」は親から子へ、子から孫へと引き継がれる文化そのものであり、子育てそのものの中に部落差別がある。文字環境を中心とした文化的環境が整備されていないことと合わせ、家庭教育力をいかに高めていくか、被差別部落の文化的貧困をいかに克服していくかは、被差別部落児童・生徒の低学力構造を断ち切る上で最も大きな課題である。

## 2 教育改革への取り組み

富田地区の「教育改革」がめざそうとしているものは、「あらゆる差別に反対し、集団主義の立場にたち、社会に目をひらき、部落解放を担いうる規律ある人づくり」である。

いい換えれば、①差別と闘い、部落解放を担いうる学力を身につけた子ども、②社会的立場の自覚と自らたちあがれる子ども、③差別と闘う仲間とともに生き、ともに闘う子どもということになる。

そのための第一は、被差別部落児童・生徒の学力・進路保障、人材養成である。それは、「二一世紀をめざす」部落民像」を明らかにし、被差別におかれている就労構造を抜本的に改革するものでなければならぬ。授業創造、地域とつなぐ学習支援策の確立もそのためである。第二

に、子ども会・青少年センターの抜本的改革である。「部落の中から部落の外へ」、多種多様な学びのスタイルの追求、家庭教育を含む生涯学習支援策が求められている。

第三には、地域共同子育て文化の発展である。読書指導・家庭学習・親子行事をはじめとしたさまざまな取り組みへの親の組織化、絵本の読み聞かせ・語りかけ・自学自習の環境づくり・豊かな文化的環境など親自身の生活規律の建て直しと子育てへの問題意識化（子どものことを第一に考えた生活を家族みんなでやる）を学校・地域・家庭の連携の中で作り上げていくことが重要である。これまでの教育運動の積み上げの中で作り上げられてきたさまざまな教育関係組織が共通の認識と目標を共有できたなら、これらのことは可能な目標であるし、これらの実践の成果は他の教育運動をさらに豊富化することにもなると確信している。

## 注

(1) 「活動家通信・三八号」部落解放同盟大阪府連合会編に所収、一九九二年八月

(2) 鍋島祥郎「部落の子どもたちの教育達成水準の動向が物語るもの」「これからの解放教育」部落解放研究所編、一九九三年

(3) 「大阪部落実態調査」、一九八二年一〇月実施。「大阪府同和对策事業対象地域住民生活実態調査」、一九九〇年五月実施による。

(4) 「これでいいのか、解放教育」生江地区解放教育改革推進本部編に所収

(5) 部落解放同盟高槻富田支部再建二〇周年記念誌編集委員会「第二集・炎を受け継いで」、一九九二年

(6) 富田地区教育改革推進会議「地域からの教育改革を」『これからの解放教育』部落解放研究所編、一九九三年拙稿「地域教育運動―地域からの教育改革」『解放教育』九三年二月号「明治図書、一九九三年を合わせて参照願いたい。

(7) 「第二次解放教育計画検討委員会最終報告書」、一九八五年

(8) 「学力保障と解放教育」部落解放研究所編、一九八七年に詳しい。

(9) 全体概要については、高槻富田地区学力保障プロジェクト「富田地区の子どもの学力生活総合実態調査報告書」、一九九八年

(10) 乳幼児実態調査実行委員会「被差別部落の乳幼児の『生活と遊びに関する実態調査』中間報告書」、一九八六年

(11) 奥田真丈、高岡浩二、島津忍、中西朗「徹底討論・新し

- (12) い学力観と評価観」小学館、一九九二年
- (12) 高槻市立第四中学校「授業づくりへの挑戦」、一九九二年
- 同「地域・保護者と共に―すべての生徒の学力保障をめざして」一九九三年
- (13) (3) に同じ
- (14) (2) に同じ

# 日本の先住民族 アイヌ

山川力・野村義一・手島武雅著

人権ブックレット 42

● A5判 ● 99頁  
● 定価 600円 + 税 18円

アイヌ民族の歴史。なぜ「アイヌ新法」を求めているのか。先住民族との共生が求められている今日、国際的な流れをふまえて解説。

